

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒100-6214

住 所 東京都千代田区丸の内1-11-1 PCP丸の内14階

氏 名 ラサールロジポート投資法人

執行役員 地紙 平

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	ラサールロジポート投資法人		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区東扇島19-2		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	倉庫業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	3,306	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2020 年度 ~ 2022 年度 (報告年度 2022 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 5,053 (調) 5,832	(実) 6,604 (調) 6,778	(実) 7,326 (調) 7,198	(実) 6,349 (調) 6,979	(実) 4,901 (調) 5,657
削減率		(実) -30.7 % (調) -16.2 %	(実) -45.0 % (調) -23.4 %	(実) -25.6 % (調) -19.7 %	(実) 3.0 % (調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	年間稼働床面積				原単位等の単位	t-CO2/千㎡
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)		
排出量原単位等の値	1.428	1.23	1.099	0.9496	1.385	
活動量の値	3536.7	5367.43	6664.4	6685.36	-	
排出量原単位等の削減率		13.9 %	23.0 %	33.5 %	3.0 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2020年度に新規でLP川崎ベイを取得したため基準年度と比較し温室効果ガス排出量が30.7%増加したが、原単位は基準年度と比較し13.9%減少した。 原単位が減少した理由は、①取得した新規事業所の原単位分母が1,867.2[千㎡]と最も大きい事に加え省エネ性能が高いこと、②既存の3事業所において空調更新工事やLED照明更新工事等の省エネ施策を実施したこと、③LP東扇島C棟で冷凍設備を保有しているテナントが退去した事が要因として考えられる。
第2年度	今年度は新規取得したLP川崎ベイの年間通したデータが初報告となるため、温室効果ガス排出量が基準年度と比較し45.0%増加した。しかし、原単位は基準年度と比較し23.0%改善される結果となった。 原単位が改善された理由は、①取得した新規事業所の原単位分母が3,138.6[千㎡]と最も大きい事に加え省エネ性能が高い物件であること、②前年度に引き続き既存の3事業所で空調更新工事やLED照明更新工事等の省エネ施策を実施したことが要因として考えられる。
第3年度	2020年度に新規取得したLP川崎ベイの影響により、温室効果ガス排出量が基準年度と比較し25.6%増加したが、原単位は基準年度と比較し33.5%改善される結果となった。 原単位が改善された理由は、①LP川崎ベイの原単位分母が3,138.6[千㎡]と最も大きい事に加え省エネ性能が高い物件であること、②LP川崎ベイに自家消費太陽光発電設備を導入し自家消費を開始したこと、③前年度に引き続きLP東扇島ABCの3事業所で空調更新工事やLED照明更新工事等の省エネ施策を実施したことが要因としてあげられる。
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	新規事業所を取得したことにより、目標としていた排出量に達しなかったものの、積極的な省エネ施策の実施、再エネ設備の導入により排出原単位は基準年度比33.5%の改善を達成した。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	本計画期間では、省エネ施策及び再エネ設備の導入により排出原単位の削減目標を達成したが、既存施設には省エネ余地が残されていることから、更なる温室効果ガス削減施策を検討していく。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①主要設備等の管理標準の定期的見直し、改善          ・定期的に管理標準の見直しを行う。          ②高効率空調の導入          ・東扇島A, B, C棟の事務室空調機を高効率空調へ更新する。          ③LED照明への更新          ・事務室、車路及び倉庫の照明をLED照明へ更新する。(全体の一割程度)          ・間引き点灯、センサーによる点灯の実施</p>
<p>第1年度</p>	<p>①高効率空調の導入          ・東扇島A, B, C棟の一部の事務室空調機を高効率空調へ更新した。          ②LED照明への更新          ・事務室、車路及び倉庫の照明を一部LED照明へ更新した。          ・間引き点灯、センサーによる点灯を実施した。</p>
<p>第2年度</p>	<p>①大規模事業所の管理標準作成          ・2020年度に新規取得した大規模事業所に対し、新規管理標準を策定した。          ②高効率空調の導入          ・東扇島A, B, C棟の一部の事務室空調機を高効率空調へ更新した。          ③LED照明への更新          ・事務室、車路、倉庫及び外構の照明を一部LED照明へ更新した。          ・間引き点灯、センサーによる点灯を実施した。</p>
<p>第3年度</p>	<p>①管理標準に基づく設備の適正運用          ・川崎市全施設で作成済みの管理標準を基に設備の適正運用に努めた。          ②高効率空調の導入          ・東扇島A, B, C棟の一部の事務室空調機を高効率空調へ更新した。          ③LED照明への更新          ・事務室、車路、倉庫及び外構の照明を一部LED照明へ更新した。          ・間引き点灯、センサーによる点灯を実施した。          ④太陽光発電設備の導入(追加実施)          ・自家消費型太陽光発電設備を導入した。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>計画した取組みは全て実施した上で、新規事業所への管理標準の作成や自家消費型太陽光発電設備の導入等計画外の項目に関しても積極的な取り組みを行った。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	2020年度に新規取得した事業所に対して、2022年度に自家消費用太陽光発電パネルを導入した。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	LP川崎ベイ倉庫屋上にシステム容量3,620kWの自家消費発電パネル設置	2022年導入済み

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	・ポスター掲示等によるテナントへの省エネ啓蒙活動を行う。
第1年度	・ポスター掲示等によるテナントへの省エネ啓蒙活動を行った。
第2年度	・ポスター掲示等によるテナントへの省エネ啓蒙活動を行った。
第3年度	・ポスター掲示等によるテナントへの省エネ啓蒙活動を行った。

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	・廃棄物の減量化・分別化(段ボールの流通再資源)の推進を図る
第1年度	・廃棄物の減量化・分別化(段ボールの流通再資源)を推進した。
第2年度	・廃棄物の減量化・分別化(段ボールの流通再資源)を推進した。
第3年度	・廃棄物の減量化・分別化(段ボールの流通再資源)を推進した。

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	5,053 t-CO <sub>2</sub>	6,604 t-CO <sub>2</sub>	7,326 t-CO <sub>2</sub>	6,349 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	2,330 KL	3,180 KL	3,790 KL	3,306 KL
事業所の数	3	4	4	4

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
ロジポート東扇島C棟	神奈川県川崎市川崎区東扇島19-2	2,192	1,693	1,314	1,244
ロジポート東扇島B棟	神奈川県川崎市川崎区東扇島15	1,741	1,737	1,457	1,380
ロジポート東扇島A棟	神奈川県川崎市川崎区東扇島18-2	1,120	1,178	928	915